

## インタビューデータの本文の見方

「文章理解研究」での文字起こしの方針として、発話に忠実に書き起こすことを基本とします。ただし、間の長さや発話の重なりを厳密に記述することはしません。これは、扱うデータが主にインタビューデータであり、複数の参加者の会話を分析する会話分析とは性質が異なるためです。

本データの文字起こしで使用した記号は、以下の「凡例」のとおりです。

### 凡例

記号	内容
I	インタビュアー
C	調査協力者
[ ]	<p>注釈</p> <p>①発話者の特記すべき行動がある場合[ ]でくくる (口で説明する代わりに実演するなど)</p> <p>②発話内容を理解するために、翻訳者が付け加えた翻訳上必要な情報を[ ]でくくって示す</p> <p>③学習者が例文の中の日本語を間違って発音したり、母語で発音したりした時その発話を[ ]でくくる (固有名詞の「大分」を「だいぶ」と発音した時、「大分[「だいぶ」と発音]」と記述する)</p> <p>④母語での発話内容が不明瞭である場合、そのまま日本語に訳したうえで、その後ろに[母語での発話内容が不明瞭]の意を各言語で記入する</p>
.....	言い淀み、言いさし
?	相手への働きかけを目的にした疑問・質問
↪	相手への働きかけを目的としない疑問
「」	<p>学習者が日本語で発話したとき、その発話を「」でくくる (例)</p> <p>中国語発話：后面说どこにけいさいされた。 日本語訳：後ろは「どこに掲載された」と言っている。</p>